

## ～生育に応じた適期中干しと、いもち病防除の徹底を！～

### 1. 分げつを早期に確保する水管理と適期中干し

高品質・良食味米の安定生産には、強勢茎主体に穂数を確保することが重要です。

そのため6～9葉期に発生する一次分げつを確実に確保する水管理がポイントとなります。

- ① 分げつの発生を促進するため浅水管理とし、水温・地温を高め、気温日較差は大きくなるようにします。かんがいは水温の低い早朝に、短時間で行いましょう。
- ② m<sup>2</sup>当たり茎数400～450本(70株/坪で20本前後)を確保した時点が、中干し開始の目安です。平年では6月25日頃ですが、ほ場の状況をよく確認して行ってください。  
なお、排水不良で中干しの効果が不十分となりやすいほ場で、畦畔に十分な高さがある場合は、中干し時期に水深15cmに保つことで分げつの発生を抑制できます。その後は中干しを実施しますが、幼穂形成期前までに終了します。
- ③ 中干しは、7～10日間程度とし、ほ場に軽く亀裂が入り足跡のつく程度とします。
- ④ 中干しに併せ溝切りをすることで、その後の水管理(間断かんがい・カドミウム吸収を抑える湛水管理終了後の排水作業)や秋作業がスムーズとなりますので、積極的に実施しましょう。

### 2. 補植済み余り苗は直ちに処分

補植用余り苗ではいもち病が発生しやすく、周辺ほ場への強力な伝染源となります。

ほ場に放置されている苗が散見されますので直ちに処分してください。

### 3. いもち予防(オリゼメート)粒剤施用

オリゼメート粒剤は初期の発病を抑えることで、その後の葉いもちの発生や穂いもちの伝染源を減少させます。

箱粒剤や側条施用剤を使用しなかった場合は、6月15日頃(6月12～18日)に10a当たり2kgを散布します。湛水状態で散布し、散布後4～5日間は入水せず、7日間は落水や掛け流しは避けてください。

### 4. 斑点米カメムシ類の生息地を減らす雑草管理

斑点米を発生させる主要種はアカスジカスミカメで、アカヒゲホソミドリカスミカメが混発することもあります。

アカスジカスミカメはイネ科雑草等で繁殖しますので、密度を抑制するため、出穂前までに畦畔や農道、休耕田等で餌となる穂を付けさせない雑草管理が重要です。

また、ほ場内にイネ科やカヤツリグサ科の雑草があると成虫の侵入を助長するので、ほ場内の雑草対策も徹底してください。

※草刈り作業は、できるだけ地域や集落でまとまって、一斉に作業を行うようにしましょう。

### 5. 表層はく離やアオミドロ等の防除

表層はく離やアオミドロ等の発生が多いと、地温や水温が低下し、生育が抑制されます。できるだけ発生が多くなる前から、気温の低い早朝や雨の日の水の入れ替えを基本とします。水管理では効果が十分でない場合はモゲトン剤等を散布します。

### 6. ばか苗病株の早期発見と早期抜き取りに御協力を

種子伝染性の病害であるばか苗病株は、6月中～下旬頃にほ場での発生が見られるようになります。

採種ほ場周辺(荷八田、朴瀬、四日市地区)でばか苗病株が発生した場合は、来年度の種子に感染する恐れがありますので、早期の抜き取りに御協力をお願いします。

## 生産履歴記帳運動

### 安全な農産物を生産するために

◎栽培協定書

◎露地アスパラ・春ねぎ

初夏穫りキャベツ・ふきの生産履歴用紙

なお、昨年度出荷のあった方に配布していますので、

「今年から作付します」や「今年はや付しない」という方は、  
営農企画課または営農指導員までご連絡ください。

**出荷前に必ず提出しましょう！**

### GAP (良い農業の実践) 普及ニュース No.2

GAPとは?

農業者が行って当たり前の事が、自分の生産工程で不備がないか  
ルールと現場を照らし合わせて、改善を行い「安全」を担保することが  
GAPです。

「安全管理は、当たり前に行っている。」と思っていても  
他の人から見たら、「危ない」と思う作業工程があるかもしれません。  
部会全体で共通の安全安心意識を持つことで、  
産地を守り、皆様一人一人の農業や収入を守ることも繋がります。

◆安全安心な農産物づくり推進協議会◆